



「安心・安全・温かい」学校の推進

学校だより

Twitter <https://twitter.com/ooizumitokushi>

東京都立大泉特別支援学校

学校通信 第7号

令和7年12月5日

HP

大泉特別支援学校

検索

扉の向こうに見えた景色は？

校長 中島 雄佑

「大泉祭」考察

練馬区大泉、この地域のお祭りには「大泉祭」という名前がついているお祭りがたくさんあります。我々が大泉特別支援学校の文化祭も「大泉祭」です。「祭」という言葉ですが、教育活動です。文化祭は日頃の学習の成果を発表するのが目的の一つですが、文化祭ですので、日ごろの学習の成果を生かして応用したり、これまで学んだ知識と発想で新たな企画を考えたりもします。自由度は上がり、やりたいことを実現するという視点も大切になってきます。「自分で考えて行動する」ことが最も分かりやすい教育活動です。指導も小学生と高校生とでは違いが顕著になります。「初めて」と「最後の」の違いです。非日常の過ごし方、非日常の心地よさ、非日常で獲得する力、経験を積むごとに、全ての子供たちの自覚は高まっていきます。去年よりは今年、今年よりは来年と誰もが思います。そうなりたいという気持ちがモチベーションを支えます。しかし、なりたい自分に自然になれる訳ではありません。そこには努力や強い意思が必要になります。経験を重ね、なりたい自分をイメージし、強い意志で努力し、たくさんたくさん考えて、たどり着けます。これは、全ての子供に共通します。「何か気持ちいい」「たくさん褒めてくれる」「拍手が聞こえる」の経験は、快の状態になりやすいシチュエーションを見つけて理解します。自分が発表するだけでは、たどり着けません。演じたり発表したりする側と、見ていたり拍手したり歓声をあげたりする側が一体になることが必要です。その空間が出来上がったり環境が整ったりすると、子供たちはものすごい力を発揮しながら、さらにものすごい力を獲得していきます。いわゆる一皮むけるという状態になるのです。今年もこの「大泉祭」を経験した子供たちは、新たな力を獲得して、少しずつ大人に近づいていっています。

「大泉祭」で子供たちが獲得する力はもう一つあります。教職員や友達とこれまで以上に分かりあい、仲良しになる力です。同じ思いを共有し、共に努力していくことは、特別な存在や関係になっていきます。お互いを信頼し、お互いが努力し、得ていく力は、当事者のみが分かることがほとんどです。感覚的なことも多く、うまく説明できないけれど、自分たちは相互理解していることも多くあります。ここから3月までの4か月は、高まった教職員との信頼関係は維持され、いろいろなことがグリーンと伸びる期間になります。私はとても楽しみにしています。

大泉祭裏話し

大泉祭の練習が始まると、教職員は「台本」を見て「自分の役割」を理解し覚える作業に入ります。毎週、校長に提出する書類にも「担当の動きを覚える」「担当の役割を確実に行う」などの言葉が多く並びました。校長はそれらを読んで、教職員に一言苦言を呈しました。「自分の担当だけを覚えるだけではダメです。全員の全場面を把握してください。そうすることで、当日突然代役が必要になっても対応できます」言うは易し行うは難しの高いレベルの話です。うちの教職員は意識が高く、待機している教職員も、集中力をすべての場面で発揮し、ほとんどの教職員がすべての役を代役できるところまで高められていました。なんと「ダンスホール」では大合唱で途絶えた音源の代役までできていました。